

進路だより



札幌市立月寒中学校
第3学年 進路係
No.53
2026.2.2 発行

みんなの力で支え合おう！今こそ「進路は団体戦」

公立高校の出願変更が終わり、全員の受検（受験）校が確定しました。これから先は希望進路実現に向けて努力するのみですが、そんな今だからこそ、「進路は団体戦」という言葉を皆さんに贈りたいと思います。

この言葉は、以前、学年集会や保護者向けの進路説明会で校長先生が話されていました。皆さんの中には、「試験会場で問題を解くのは自分一人。個人の実力が試される個人戦じゃないですか？」と考える人もいるでしょう。確かに試験時間中は個人戦です。でも、そこに至るまでの経過は、間違いなく団体戦だと思います。



先日、面接練習の裏で一昨年の公立入試、理科の問題に取り組みました。全道平均38.6点という、なかなかの難問で、初めて見た生徒には面食らった人も多かったと思います。一方で解き方を教え合い、高め合う姿を見ることができました。このように解らない問題があったときに一人で抱え込みます、仲間と教え合ったり勉強法を共有したりしながら、お互いを高め合うことができるが、「進路は団体戦」と呼ばれる理由の一つです。

入試の前に不安になることは、誰にでもあることです。夜、なかなか眠れないことがあったり、夜中に突然目が覚めてしまったり。孤独になりがちな受験勉強において、クラスや部活の仲間、あるいは家族と同じ目標に向かって励まし合い、支え合うことは、とても大切なことです。「一人じゃない」と思える環境が、最後の一踏ん張りを支えてくれるのです。そんな精神的に支え合うことが、「進路は団体戦」と呼ばれるもう一つの理由です。

「進路は団体戦」と呼ばれる理由を理解してもらえたでしょうか。一方で、すでに私立の単願等で進路が決まっている生徒たちはどう振る舞えばよいのでしょうか。合格し、うれしい気持ちは分かります。周囲の人たちも、きっと喜んでくれることでしょう。しかし、それを過度に自慢したり、優越感にあふれた態度で接したら、進路の決まっていない人たちはどう感じるでしょうか。この時期だからこそ思いやりの気持ちを忘れず、配慮した言動や態度を見せと欲しいな、と思います。「クラスのことは自分たちに任せて、みんなは勉強に集中して！」くらいの気持ちでいてくれたほうが、かっこいいと思いませんか？そんな、ハートのかっこよさを見せてほしいと思っています。

入学手続きについて

私立単願・専願・推薦等の合格発表が終わりました。合格した生徒は入学手続きを行うことになりますが、入学手続きは各御家庭の責任で忘れずに行ってください。すでに高校からのお知らせで御承知のことだと思いますが、入学手続きの時期は高校によってかなり異なります。早い学校では、本日（2月2日）中に校納金をオンライン決算終了、明日（2月3日）までに手続き終了の高校もあります。手続きの詳細についての問い合わせは、直接各高校までお願いします。